

『土船かわら版』



今年も楽しいランタンが並びました！

活動報告

水保ハロウィンランタン祭り

報告：水保地区農林業振興地域づくり協議会
地域交流グループ幹事 吾妻明子

10月25日（土）、第2回となる水保ハロウィンが開催されました。水保地区農林業振興地域づくり協議会が主催し、福島市教育委員会、青葉学園、東泉寺、福島学園大学、福島民報、福島民友新聞社の後援で行いました。多くのボランティアさんにもお世話になりました。

フルーツライン沿いの東泉寺駐車場入り口から水保小学校までの道沿いにカボチャで作ったランタンを並べ、その幻想的な光を眺めながら、5か所のお宅を回ります。子どもたちが「トリックオアトリート！」と叫ぶとお家の方たちが「ハッピーハロウィーン！」と言ってお菓子をあげます。ハロウィンのお化け風船やイルミネーションで雰囲気盛り上げている家もありました。受付では仮装グッズも用意され、自由に写真を撮ることができました。5か所のお宅を回ってゴールするとジュースがもらえ、じゃんけんで勝つとまた別のお菓子がもらえるというおまけつきです。カボチャは水保地区の耕作放棄地2か所で苗から育てたものを使用しました。この作業にも、福島学院大学の学生さんや地域の子もたちが参加してくれました。ランタンづくりは22日から25日まで、地区の皆さんや青葉学園の子ども達、水保小学校の児童・吾妻中学校の生徒達で「どんな顔にしようか？」考えながら一生懸命作りました。福島学院大学の杉浦先生の指導のもと、初めて挑戦する子どもたちも楽しく作ることができました。

開催当日はあいにくの雨模様となりましたが、多くの方が水保地区以外からも足を運んで下さり「楽しかったですよ！」「去年も来ました！」と声を掛けてくれる方もいました。福島学院大学からは保育科の学生さんをはじめ、地域マネジメント学科の茨木先生や学生さんも応援に駆けつけてくれました。水保地区での耕作放棄地対策と地区内外の交流を目的としたイベントを通じ、農林業の活性化に結びつきました。秋の夜長にこんな体験もたまには良いものですね。



事前のランタン制作や本部の設置では東泉寺さんに大変お世話になりました、また地区消防団のご協力のおかげで、安全な火の管理や交通誘導が可能となりました。福島学院大学をはじめ皆さまに感謝致します！

土船区で始まり、福島市内各所に波及効果をもたらしている「おでかけサポート」。実際の運営には「ボランティア運転者講習会」の受講を必須としています。今年度は独立行政法人福祉医療機構（WAM）より助成金を頂戴し、受講料や講師謝金・交通費等に充てています。

11月14日（金）と28日（金）は青葉学園にて。11月15日（土）は南向台ふれあいセンターにて開催しました。講師は福島県移動サービスネットワークの大山事務局長さんです。また、開始当初から専用保険でお世話になっている損保ジャパン代理店の林さんから、保険についての説明もして頂きました。

10月10日に開催した「学習会」を経て、住民同士の助け合いでの移動支援について意識を高めた方々が、実際の運営に向けて受講されました。午前中の座学で「許可・届け出の不要な移動サービス」や安全運転に関するお話しをお聞きし、午後はマイカーに乗って実地研修を行いました。皆さん、自分の運転のくせを確認することが出来、ボランティア活動の他にも、日常的な安全運転に役立てることが出来ました。今後の地域福祉拡充のためにご尽力下さい！私たちは、日々の暮らしを支え合う市民活動の手段として「移動支援」を位置づけています。フレイルを予防し、健康寿命を伸ばしながら孤立を防ぎ、元気な生活を送りましょう！



住民の声＝福祉的課題

- ・自分で買い物に行けない
- ・重い荷物が運べない
- ・通院に困る（高額交通費）
- ・体操クラブに行けない
- ・サロン活動に参加したい
- ・顔馴染みとお話したい
- ・簡単な軽作業を頼みたい

福島地域福祉ネットワーク会議

- ・住民ニーズを聞く
- ・全国事例から具体案を提示
- ・学習会で周知～検討
- ・実情に即したルール作り
- ・講習会や保険契約まとめ
- ・結果集約等事務的サポート
- ・福祉連携での軽作業を仲介

住民の互助的な地域福祉活動

- ・自分たちのルールで運用
- ・自由にルールを変更
- ・利用希望者の掘り起こし
- ・運転ボランティアの推薦
- ・運転者講習会への参加
- ・移動支援保険の有効活用
- ・実績表で報告（実費相当）

●住民の生の声（課題）を聞き、住民本位の提案・ルール作りを経て、住民主体による互助的活動へ
 ●結果的に住民の共感呼び、参加者・利用者が拡大。継続的な利用に結びつき、他地域の参考例に
 ★地域住民・市民活動・企業・団体・福祉の専門職・行政の連携で支え合い＆分かち合う福祉へ

活動報告

『参加支援事業』で見学に行きました！

大人の社会参加を目的に受託している福島市の同事業では、福島市社会福祉協議会さんやNPO法人ビーンズふくしまさんと連携しています。今回は社協さん主催の遠足学習会で飯坂町のカフェヒラナガさんを訪問。珈琲豆のピックアップでお世話になっているお店で焙煎の様子を見せて頂き、カフェの接客で心掛けていることなどを伺いました。興味深い見学へのご協力に感謝致します！



活動報告

『水保プロジェクト』が開催されました

報告：土船区長 吾妻明子

11月15日に水保プロジェクトが行われました。日本赤十字の方に来ていただき、災害時の対応について楽しみながら学びました。小学校の子ども達と保護者や地域の人達で5~6人のグループを作り、まず避難所に持っていく物は何かをみんなで考えました。次に水や燃料が限られた環境で食事を作るにはということで、特殊なポリ袋に米を入れ大きな鍋で煮るという体験をしました。まず自分が食べる量(半合)を袋に入れ目印のところまで水を入れます。次に輪ゴムで縛るのですが、空気を抜くのが難しく低学年の子ども達は地域の大人の人に手伝ってもらいました。その米が入った袋が100個以上入る大きな鍋で30分程煮ている間に、ご飯の入れ物を作りました。新聞紙やボール紙を使い簡易のお皿の出来上がりです。そこにラップを敷き出来上がったご飯を袋から出し、一緒に温めたカレーをかけてみんなで試食です。家で炊飯器で炊いたご飯と変わらず美味しかったのでみんな完食しました。今回は、子ども達と地域の人達で楽しく貴重な体験ができました。



ペット紹介

『我が家のペット』 投稿：高橋由希さん

我が家には12月5日で6歳になるロングコートチワワのレオンという男の子がいます。チワワは体が小さく勇敢で愛情深く、忠実ですが警戒心が強く、見知らぬ人には吠える二面性を持っています。好奇心も旺盛で、非常に甘えん坊です。名前を呼ばれるととても嬉しそうに尻尾を振り回して凄い勢いで跳んできます。顔を近づけると「大好きだよ」と言わんばかりに顔を舐め回してきます。最近は「まわれ」や「くぐれ」などをできるようになり、誇らしげな顔をしています。食べることも大好き、ダンボールを横に置くと突進して入る技も持っているとても愛嬌のある子です。



もうすぐ6歳だワン!

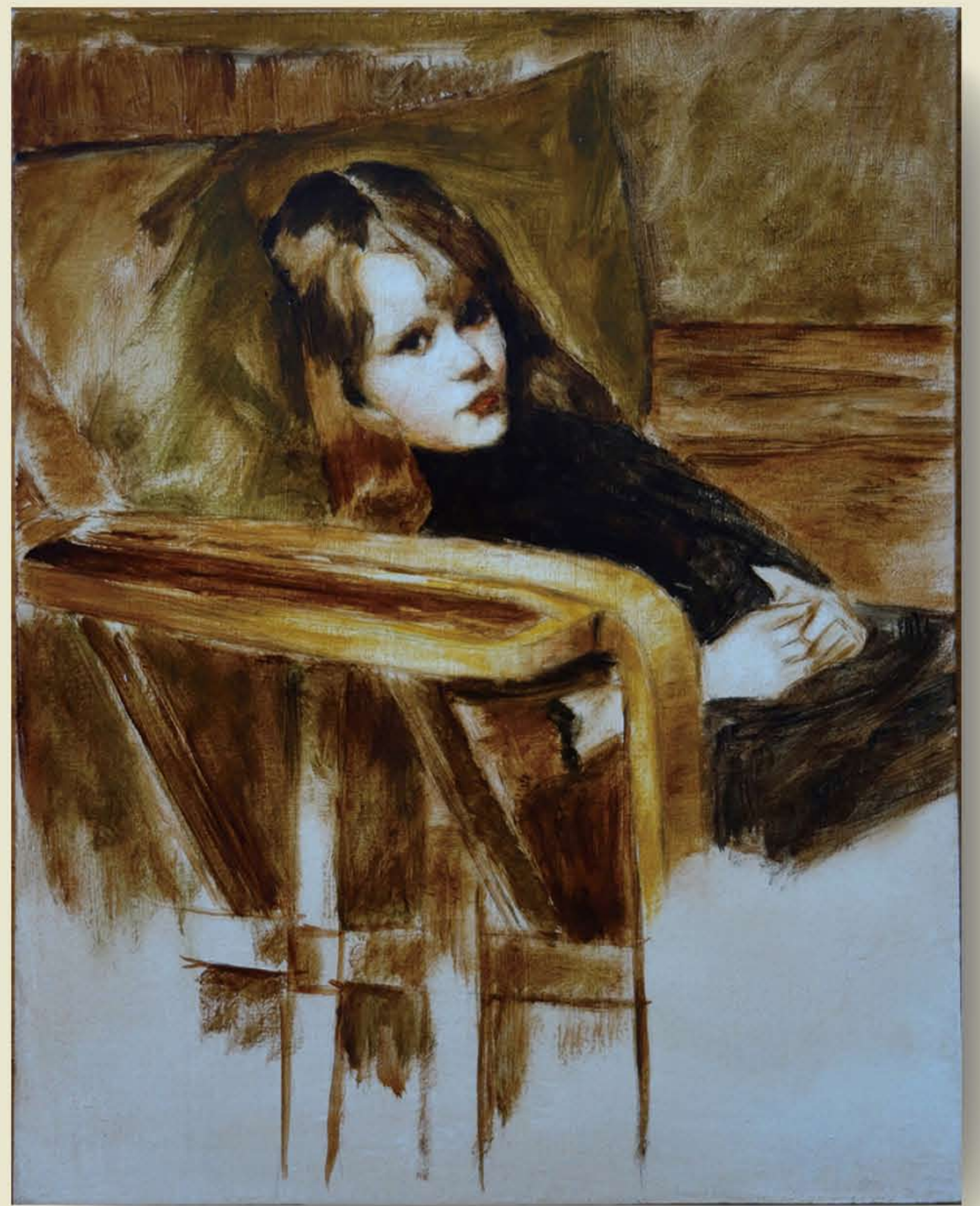


ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス作
「The Easy Chair」の模写

ラファエル前派、ロマン派に属する19世紀の画家ジョン・ウィリアム・ウォーターハウスが描いた肖像画を模写しました。

ウォーターハウスは古典的でアカデミックな技法と19世紀の印象派に見られるような筆致の大胆さを合わせた折衷的な技法で神話などを主な題材に描いた画家です。

この粗い描き方はエポーシュと呼ばれ、短時間で仕上げたい時や下書き等に用いられる即興的な描法です。エポーシュを模写することで、当時の画家がどのような手順でどのような筆を使い、どんな筆致でどのくらいの厚みの絵の具を塗っていたのか等の研究をするのに役立ちます。美術系の学校を出ていない私にとって素晴らしい絵を模写することは過去の巨匠の技術を学ぶことのできる重要な役割を担っています。



「The Easy Chair」John William Waterhouse
(模写) 板に油彩 19.1cm×24.0cm

投稿俳句
募集中！

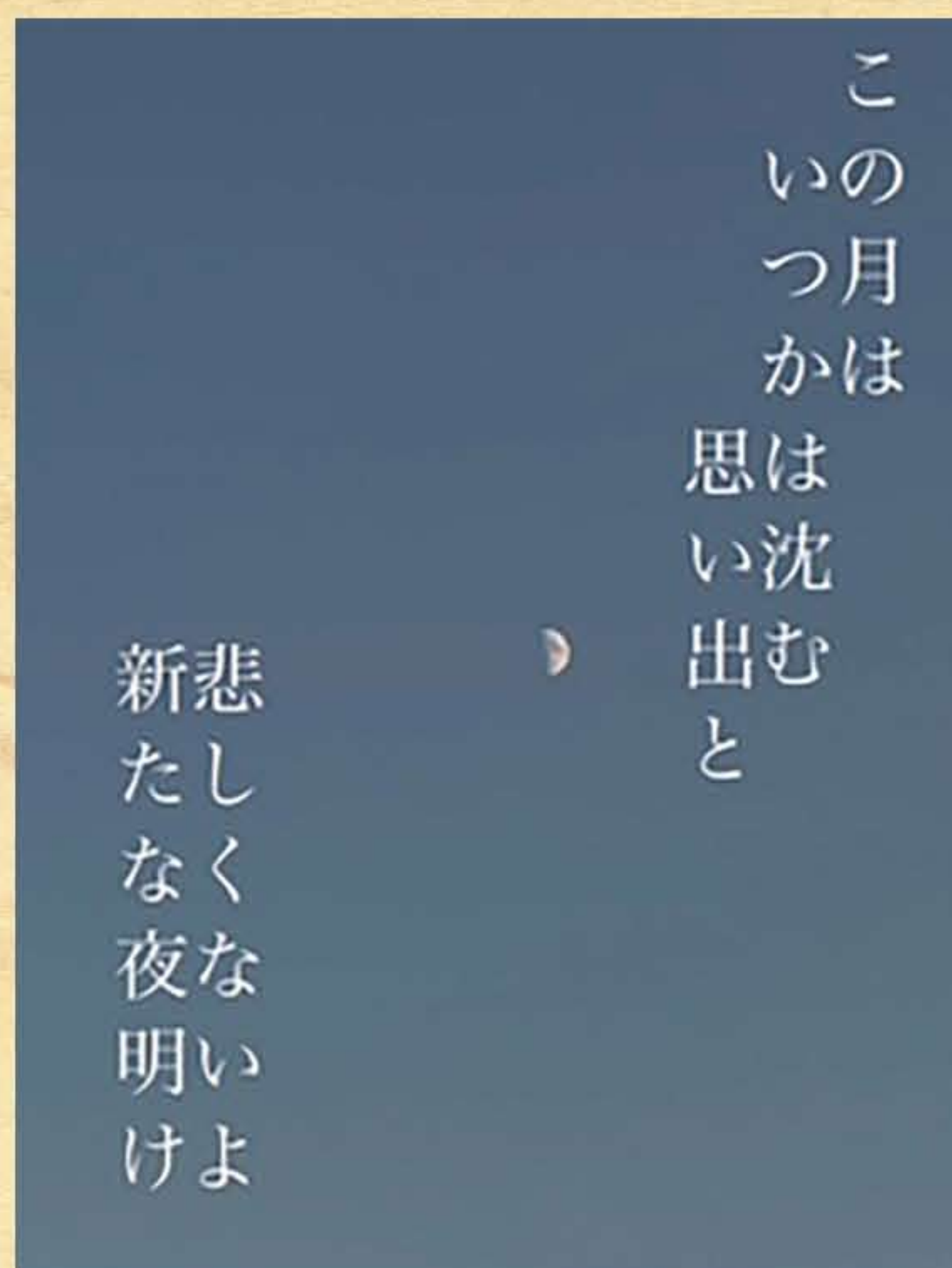
好評！写真で一句シリーズに、ただいまの心境を乗せてお届けします！



高校生の俳句に
青春の1ページを
見る想いがします...
嗚呼、
共学の青春！
男女別校だった
世代とは異なる...
悩みの尽きせぬ...



忘過
れ去
るの
た自
め分
にを



新悲
たし
なく
夜な
明い
けよ



遠想
へい
とは
どこ
か

県外にお住まいのご家族やお知り合いに「かわら版」をお送りください！
青葉学園で無料配布中！

2025.12.01. Ver.33

広報紙『土船かわら版』第31号 発行 福島地域福祉ネットワーク会議

事務局 〒960-2152 福島市土船字新林 24 番地 社会福祉法人青葉学園内

Mail : fukushima.chiikifukushi.ntwk@gmail.com Tel : 090-6553-1584・024-593-1022

※部数ご入用の方はご遠慮なくお問い合わせください ※ご希望・ご提案・ご相談も受け付けております